

この号の見出し

- ◆ 追悼 益川敏英さん（「九条科学者の会発足呼びかけ人） 浜田盛久（九条科学者の会事務局員）
- ◆ 学術会議会員候補6人の任命拒否の撤回を求める神奈川県民署名について 後藤仁敏
- ◆ JSA 第 57 期第 1 回関東甲信越地区会議の報告 後藤仁敏
- ◆ 水素原子はなぜ安定的に存在するのか 神奈川民間懇 北山宏之
- ◆ 「リキ」と過ごした 18 年 後藤仁敏

追悼 益川敏英さん（「九条科学者の会」発足呼びかけ人）

浜田盛久（九条科学者の会事務局員）

2008 年にノーベル物理学賞を受賞した京都大学名誉教授の益川敏英さんが、2021 年 7 月 23 日にお亡くなりになりました。益川さんは、「九条科学者の会」発足呼びかけ人のお一人でいらっしゃいました。益川さんは、幼少の頃に名古屋で空襲を経験したこと、さらには名古屋大学での恩師・坂田昌一先生の平和運動に対する情熱的な姿勢に影響を受け、ご自身も一貫して反戦・平和を訴えて来られました。2005 年に九条科学者の会が発足した時には、呼びかけ人として「平和の日本か戦争の日本か最後の攻防の瀬戸ぎわまで来ています。我々はこの戦いに勝たねばなりません」というメッセージを寄せて下さいました。



図1 発足4周年記念のつどいででの講演

2009 年 3 月に開催された九条科学者の会・発足 4 周年記念のつどいでは、「人類に役立つ科学の発展と平和の確立を願って」と題して講演講演をして下さいました（図 1）。

九条科学者の会の共同代表の志田陽子・武蔵野美術大学教授（憲法学）は、NHK の取材に対し「益川さんは、戦時には学者が軍事に利用されるということの重大さから、学問の自由独立と科学者の良心、日本が選択した平和主義を守る必要性を常に鋭く意識しておられた。軍事研究が露骨に推奨され始めた 2014 年ごろからは意志を持って発言されていて、大きなスケールの社会的使命感を持った科学者という意味で『巨星』であったと思う。こうした方が失われ、空いた穴は大きい。意思を引き継いでいかないといけない」との談話を出しました。

益川さんの著作『科学者は戦争で何をしたか』（集英社新書・2015 年）の中に、益川さんの「九条科学者の会」の呼びかけ人としての思いが書かれていましたので、抜粋してご紹介します。

——以下、抜粋です——

「九条科学者の会」の設立

私は、恩師の坂田昌一先生の平和に向けての情熱的な活動に感化され、そのお手伝いをしてきましたが、私自身はそうした平和運動の旗振り役になるつもりはありませんでした。理念には賛成しても、あくまで助っ人として飛び回る。そのほうが私らしい役割を果たせると思ったからです。

しかし、21世紀に入った頃から、どうも日本の様子がおかしくなってきた。縁の下で力を貸しましょうという立場では、改憲派に押し切られてしまいそうな危惧を覚えて、もっと具体的な非戦のアピールが必要だと思うようになったのです。

すでに作家の井上ひさしさんや大江健三郎さんたちが設立した「九条の会」がありましたが、その考えに賛同し、日本中の科学者たちで組織したのが「九条科学者の会」です。私はその発起人として名を連ねることになり、ノーベル賞を受賞してからは特にグループ主催の集まりなどで講演をしたりしています。講演と言っても、メンバーは錚々たる顔ぶれの科学者ですから、足手まといにならないよう、恩師の坂田先生の話や私の戦争体験を、できるだけ謙虚に皆さんにお伝えしています。

この「九条科学者の会」設立の際、この会に賛同した科学者の皆さんがメッセージを寄せたのですが、今回、見直してみると私は相当勇ましいことを言っています。

”まがりなりにも日本が平和でこられたのも九条のおかげです。今九条の解釈のなしくずしで、一万キロメートルかなたまで日本の自衛隊が言っています。これ以上の事をするにはどうしても九条がじゃまです。平和の日本か戦争の日本か最後の攻防の瀬戸ぎわまで来ています。我々はこの戦いに勝たねばなりません。”

このメッセージは2005年、10年前のものですが、安保法制が具体的に動こうとしている今こそ改めて発信しなおしたい気分です。

憲法前文には、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」、そして「いつれの国家も、自国のことのみ専念して他国を無視してはならない」とあります。この言葉の意味には、「武力を使ってでも他国を支援する」ことは入っていないはず

です。自衛隊を海外する費用の10分の1でも使えば、支援を受ける国の人々が喜んでくれる立派な海外協力隊ができます。医療支援も食糧支援もインフラ支援も、日本にしかできない道を追って世界に貢献すればいいのです。そうした非戦アピールができるのは、広島、長崎で唯一被爆経験を持つ日本だからこそだと思いませんか。

——抜粋終わり——

益川さんの生前のご功績を偲び、反戦・平和のメッセージを改めて胸に刻みつつ、心からご冥福をお祈りいたします。

学術会議会員候補 6 人の任命拒否の撤回を求める神奈川県民署名について

後藤仁敏

支部通信 4 月号に同封した上記署名は、最終的には 3 万筆以上集まり、7 月 16 日に衆議院第一議員会館会議室で、神奈川県選出の阿部知子・畑野君枝衆院議員、福島瑞穂・那谷屋正義参院議員らが立ち会い、内閣府の職員に署名を手渡しました。以下は、その際に私が行なった発言の原稿です。合わせて、東京新聞の記事も添付しました。

この問題は、権力が学者コミュニティに乱暴に介入したことで、日本学術会議法に違反しています。学術会議法では 7 条 2 項で、「会員は、第 17 条の規定による推薦に基づいて、内閣総理大臣が任命する」とあり、第 17 条では、「日本学術会議は、規則で定めるところにより、優れた研究又は業績がある科学者のうちから会員の候補者を選考し、内閣府令で定めるところにより、内閣総理大臣に推薦するものとする」とあります。「優れた研究又は業績」以外に会員の基準はないのです。

その後の過程で、杉田和博官房副長官が 6 人を「外すべき者」としてことが文書で明らかになりましたが、杉田官房副長官が関与したこと自体が違法です。そしてその理由は本人が自己情報開示請求をしても明らかにしないのは許されないことです。

憲法 23 条には「学問の自由」の保証が掲げられていますが、それを保障するには学者コミュニティの自立性、大学の自治が必要です。学術会議法の 3 条には「日本学術会議は、独立して左の職務を行う」とあり、独立性を保証しています。菅首相の任命拒否は学術会議の独立性を破壊するもので、日本学術会議法と憲法 23 条の違反です。

さらに 1983 年の法改正の際に当時の中曽根首相は「政府が行うのは形式的任命に過ぎない」と答弁しており、菅首相の任命拒否はこの政府答弁にも反します。政府答弁を変えるなら、しっかりと理由の説明が必要ですが、菅首相はまったく説明していません。

私たち神奈川県の大学人・研究者は、昨年 10 月にこの問題が明らかになった際、大学人・研究者有志の共同声明として、200 人以上の賛同者を得て、発表しました。その際、山根徹也先生から「一般の県民の方にも賛同をいただこう」という提案がありましたが、私は大学人・研究者 200 人だから意味があるので、県民の署名をたとえ 1000 人集めてもさほどの意味がないし、土台、1000 人以上の方の名前を記録するだけでもたいへんな作業になるので、辞めましょう、と言いました。

しかし、その後も、県民の方々から、この問題は学者だけの問題でない、これを許しては日本が法治国家ではなくなってしまうとの意見が寄せられ、今回の署名を行なうことになりました。署名を集約し、整理する実務を担う事務局も設けられました。しかしそれでも、私は、はたしてどの程度の数が集めるか、学者の世界のことを県民の方々がどれだけ自分のこととして考え、取り組んでくださるのか、まったく自信がありませんでした。

ところが、蓋を空ければ、3 万を超える署名、県民の皆さんが学術会議任命拒否問題を自分の



図1 2021年7月17日 東京新聞 川崎版 17面

こととして捉えてくださり、一筆ごとに県民の方々の思いを込めた署名に、私どもの方が励まされたと感じています。とくに菅首相の地元神奈川でのこの県民署名には大きな意義があると感じております。菅首相はこの神奈川県民の思いを重く受け止め、一日も早く任命拒否の撤回をするように、改めて強く求めます。

JSA57 期第 1 回関東甲信越地区会議の報告

後藤仁敏

7月2日の夜、第1回目の関東甲信越地区会議が開催されましたので、簡単に報告します。参加者は、東京、茨城、埼玉、山梨、神奈川、長野、栃木、千葉、群馬の各支部でした。

簡単な自己紹介のあと、第2回幹事会の報告があり、24総学は大阪・近畿で実行委員会、ハイブリッド形成を検討していること、学術会議任命拒否問題の署名活動に取り組む、JSAだけでなく全大教、私大教連などに呼びかける、会員拡大につなげる、科学者集会に募金をなどが報告されました。

支部からの報告では、群馬支部からはブログをやっている、コロナ前は群馬大でセミナー・研究会を開いていた、学生の参加もあった、学術会議問題で群馬弁護士会と共同記者会見を開いた、運営で工夫していること、事務局長が抱えこまないで、支部幹事が役割を分担していることが報告されました。

栃木支部からは、毎月支部幹事会を宇大で開いていたが、コロナで休眠状態になったと報告されました。

茨城支部からは、幹事会を置いていないで事務局（退職者3人）が運営に当たっている、研究所のセキュリティが厳しくなったので事務局会議を開けなくなり、外部の施設を使っている。一昨年までは年1回、セミナーを開いていた。支部ニュースは毎月発行している。多くの会員が退職し、半数以上は個人会員。分会も多くが退職者、新会員拡大も厳しい。研究所が多いので学生を拡大することもできない、との報告でした。

神奈川支部からは、支部大会でコロナ関係の講演を二つした、コロナ対策の要望書を県・横浜市・川崎市の首長、議員に3回送付した。反応が毎回ある。カジノ IR について、住民投票の直接請求は必要数の3倍を集めたが自公が市議会で否決した。市長選で自民党候補が IR 誘致取りやめを宣言し、住民投票を求める運動が実質的に成果をあげた。学術会議会員任命拒否撤回の県民署名3万以上集めて提出した。神奈川選出の国会議員4人が集まってくれて内閣府の官僚を呼んで署名を渡し、厳しく追及した。神奈川新聞、東京新聞が報道した。

埼玉支部からは、分会はなく全員、個人会員。会員間の交流の場を作りたいがコロナでなかなか難しい。年3回程度はリアルで顔を合わせている。支部ニュースを年3-4回発行、創刊号からNo.190(2019年)まで電子化してまとめ会員に配布。リモートで勉強会をという話があったが、慣れていない人が多く、やっと1回やった。毎月幹事会開催、幹事は全員退職者、役割分担はきっちりできているとの報告でした。

山梨支部は、会員は退職者、アカデミア以外が多い。幹事会を毎月開催とのこと。学術会議任命拒否の運動した。「大学人の会」をつくり、上野千鶴子氏（山梨在住）・弁護士の講演をやった。市民・県民に関心を持ってもらうために、息の長い運動を行うため、パンフレットを作った。野

党共闘を進めていくため、総選挙に向けて、各政党に呼びかけでいるとのこと。

千葉支部では、期限付き雇用教員・研究者を対象とした10年雇い止め問題。来年から雇い止めに遭う人が出る。JSAが取り組む課題としては、科学の成果をあげることに、社会に活かすということ。政府が行っていることは重大な疑念がある。それに対して取り組みたい。千葉には血清研究所（公立）があった。2002年に堂本知事の「小さな政府」論で閉鎖され、ワクチン研究の拠点が失われた。日本はワクチン開発で世界に貢献できていない。それを取り戻そうともしない。国民の健康と生命を守るという立場から、自分でも考えている最中です。

長野支部は、幹事7人中、現役は1人。会誌配布、会費集めは必ずやる。支部ニュースは読まれている気配がないのでやめた。ただし、必要な情報は適宜、配布している。安保法制のときに信州大、長野大の教員が会を作り、現在も続いている。JSA会員の参加は少ない。

東京支部は、常任幹事会を毎月開催している。常任幹事の半数が女性。オリ・パラ中止を求める声明を政府・都知事に送った。英文に訳してバッハIOC会長にメールで送付した。特派員協会にプレスリリースを送った。これまで決議・声明は関係各機関に送っていたが、記者会見も考える必要がある。外国メディアには「編集者へのメール」というので受付けているのが多い。全国国際部でも検討してはどうか。東京科学シンポを11月末ごろに開く。リアルに会場を借りてやる予定。分科会を募集中です。コロナ問題で連続学習会をオンラインで3回開催した。

東京の院生会員からは、コロナで、リアルな人との交流がなくなり、いろいろな人と話す機会がなくなり、自分の研究を考える機会がなくなった。「夏の修論道場」をオンラインで開く。専門外の人から社会的意義を問われたり、他分野からの指摘などがあり有意義。

続いて地区シンポについて以下のような議論がありました。2019年10月の地区シンポを台風で直前に中止にした。今年度は行いたい。地区シンポは隔年とは限らない。かつては毎年開いていた。地区シンポで、参加者からのカンパなどで貯まったお金がある。ターゲットをどこにあてるのか。現職の教員・研究者が集まりやすいテーマが良いのでは。地区シンポは会員拡大の手段でもある。営業戦略としてはターゲットを決めてそこに響くようなテーマが良い。会員がバラバラになっているので、横のつながりをつくれぬか。コロナ禍でオンライン授業が広がっている。現職教員みんな苦勞している。学生は入学式がない、友人との交流がない。貧困問題もある。ワクチンで言えば若い人たちほど打たがらない。いろいろな情報があるから。これに対する科学的な対応が必要。そういうのは若手の関心を引くのではないか。学生にも関心があるのではないか。JJS 8月号（コロナ特集）を読んで、メールで議論して、テーマ・内容をしばっていくことにした。

支部の活動を決めたら他の支部にも伝えてほしい。情報の共有を。地区会議の日程設定は、ゆとりをもってやってほしい。

各支部で同じような問題をかかえて苦勞していることが分かり、有意義な会議となりました。

水素原子はなぜ安定的に存在するのか

神奈川民間懇 北山宏之

量子力学の再学習に取り組み始めた。並行して、県立川崎図書館で「アインシュタインの反乱と量子コンピュータ」（佐藤文隆著、京都大学学術出版会、2009年2月発行）の著者とタイトルに惹

かれて、熟読していると、p 262～264に「ウソを教えない工夫」の節で、以下のような興味深い内容に目が止まった。

原子や量子力学の題材で国民的「常識」の1つとされている「知識」に「原子は原子核の周りを電子が回っている」というのがある。著者はこの「ウソ」を教えることを止めようと提案したことがある。日本物理学会の物理教育に関する雑誌に「ウソを教えない工夫」をしようと呼びかけたのである。しかし残念ながら反応は1つもなかった。

大体、ハイゼンベルグが論文で述べたように、ありもしない軌道を考えないことにしたから量子力学に飛躍したのである。またアインシュタインが湯川に語ったように、量子力学では加速度を追放したから遠心力という概念はないのである。確かに専門家は原子内では軌道でなくエネルギー準位で考える。なのに何故か素人には「ウソ」を教えるのである。例えば水素原子の電子は基底状態では角運動量はゼロだから、(←これ自体もまさに量子力学的に説明されるべき内容！ 北山記)「回転しない。」だから回転しているために電気力と遠心力が釣り合って原子が安定に存在する、というのはウソである。これこそ有限な作用量子の新たな効果によって原子は安定に保たれているのだ。「ウソは泥棒のはじまり」と言うからよほど深刻に考えた方がいい。

その文章に詳しく書いたが、現状がなぜ「ウソ」を教えることになっているかは十分理解している。……(中略)この「ウソ」問題は日本特有なことではない。しかしこれでは「量子力学の魔性」をひた隠してきたようなものである。モノの「知識」開発を十分やった現在、だんだんボーア思想善導の時期を卒業して、もう一度、量子力学の創造期の“ごたごた”に戻ってみてはどうだろう。

えっ！本当に下線部のような内容で原子の安定性が説明されているのか、ということで手元にある量子力学の教科書にまず目を通して見たが、そんな説明は見当たらなかった。電子軌道という言葉は出てくるが、シュレディンガーの波動関数やら電子の存在確率分布等を用いて量子力学の基礎を語っている。

そこで次に1970年の私の高校時代の物理の教科書では、電子の遠心力と電気力の釣り合いの式(電子の粒子性を前提にしている)と、電子は波としての性質をもっているというド・ブロイ理論による式の両方の式から、電子の軌道半径や水素原子のエネルギー準位がとびとびの値をとることを導出している。この記述の前半部分はまさに上述の下線部のイメージそのものであり、前半分で電子の粒子性、後半部分で電子の波動性をもとにしており、確かに電子は粒子性と波動性の両面を持った量子的存在だが、このような説明では電子は結局どのような状態にあるのかイメージがきわめてつかみにくいと思われる。

ではどのような説明が求められるのか？ 前提書のp205に回答の基本を発見した。

確かに量子力学には運動方程式が登場しないから、ニュートン力学における「質量」×「加速度」＝「力」という関係は姿を消している。だからアインシュタインが「加速度を消去して」と言ったのは「力を消去して」と読み替えてもいい。……

量子力学へ接続する古典力学は解析力学である。この形式は電磁場の力学観を可能にし……量子力学に導く上で解析力学の抽象化された概念が大きな役割を果たした。この段階で対象自

体が力を受けて軌道を描くというイメージは消滅したのである。・・・解析力学は「因果」の根拠を示すのではなく、「状態」と「状態」を繋ぐ変換理論となったのである。「状態」と「状態」の間、つまり軌道は主な関心ではない。むしろ「状態」の規定に幅を持たせれば繋ぎ方が1対1でない対応関係が必要になる。

こういう解析力学の力学観の転換の上にヒルベルト空間に飛躍できたのである。

というわけで、次の目標は解析力学を再学習し、A4 1ページ位の分量で素原子の安定性を、ウソをつかずにどこまでイメージを膨らませてまとめられるか、ということになりそうだ。

「リキ」と過ごした18年

後藤仁敏

愛犬少年の生い立ち

私がまだ幼いころ、父が犬をもらってきてくれ、物心つくころから私の傍には「タロ」がいた。名古屋市の郊外ではまだ自転車やリアカーが主流で、車の量も少なく、「タロ」は放し飼いのようにしてあった。しかし、小学校3年生の時に父の仕事の関係で、町中に転居してからは、車が多くなり、「タロ」は交通事故にも会い、死んでしまった。家に入った泥棒を追い返したこともあったのに。私は、生まれてはじめて親しいものの死に出会い、泣きながら寝入ったことが忘れられない。

小学校4、5年生の時に、父の友人から「モク」というシェパードがわが家に来た。すでに成犬であったが、素晴らしく頭のよい犬で、しつけのよい犬だった。しかし、蚊が媒介するフィラリアという寄生虫病にかかり、胸膜腔に貯まった水を抜いたが、死んでしまった。当時はよい薬がなかったのだ。

その後、中学2年の時に「クリス」というシェパードの生後58日の子犬がわが家に来た。私はクリスをかわいがり、朝晩、餌をやり、「クリス」と近くの公園を散歩した。しかし、私は地質学を志し、東京教育大学に進学したために、「クリス」を名古屋の実家に残し、父と母に世話を依頼することになった。私が大学1年生の正月に帰省した時、「クリス」は家の床下で亡くなった。「クリス」は「モク」と同じフィラリアにかかっていた。「クリス」は私の帰省を待ち、私たちの話声を聞きながら、死んでいったのかと思うと、私は強い悲しみにおそわれ、今度犬を飼うときはかならず死ぬまで自分が面倒をみようところに誓った。「クリス」はわずか5年1カ月に亡くなってしまったのだった。

「ルル」と「クロ」の思い出

とはいえ、東京の下宿やマンション暮らしでは犬を飼うのは夢のまた夢であった。結婚し、3人目の娘ができた時、横浜のはずれに一戸建ての家をローンで買うことにした。ちょうど、解剖体として献体してくださった方にご遺骨を返しに山梨に行った時、ご遺族の方が犬の繁殖をされていて、犬を安く分けてくださると言われ、娘たちのためにもシーズの雄の子犬を買うことにした。風邪をひかないように「ルル」と名付け、娘たちもよく世話をしてくれた。フィラリアの薬ものませ、「ルル」は14年8カ月も長生きし、私が最期まで面倒見ることができた最初のイヌとなった。

末娘が小学2年生の時、学校からの帰りに犬が娘に付いてきて、一度は「ルル」がいるからと諦めさせたのに、見ているうちに可愛くなって買うようになったのが「クロ」だった。「クロ」はその名のとおり真っ黒な雌犬で、生後3、4カ月でわが家に来て、娘たちにも愛され、何と15年1カ月も生きた。私にとっては、娘たちが進学や結婚で、次つぎに家を出ていくなか、「クロ」だけは家にいて、どんな時も私の傍にいてくれた。しかし、年をとると真っ黒だった毛も茶色になり、「クロ」は次第に老いていった。2002年の暑い夏、そして2003年にかけての冬の寒さのなか、「クロ」ははだいに弱り、ボーとすることが多くなった。散歩もできなくなり、2003年1月に亡くなった。ちょうど長女と次女がお正月に揃って帰省し、二人が帰ったあとだった。娘たちに最後のお別れをして、「クロ」は死んだのであろう。

「リキ」の思い出

「クロ」が死んだ後、私は悲しくて悲しくて、毎日、「クロ」と散歩した道を一人で散歩していた。次の犬がほしいとネットを使って探すなか、仲町台の獣医が里親募集をしていることが分かった。見行くと、何匹かいたが、初めは「ハナミ」という雌犬をもらうことにした。しかし、「ハナミ」は餌を食べず、とても飼育することができないと判断し、翌日、獣医に返した。



図1 わが家に来た頃の「リキ」

そして、つぎにもらってきたのが「リキ」だった。高橋よしひろ著『銀河伝説リキ』という漫画の主人公から三女が名づけた。「リキ」は漫画のとおり元気な犬に育っていった。

2003年5月にわが家に来たときは生後2.5カ月だった(図1)ので、「リキ」はこの年の2月中旬に生れたようだ。「リキ」は秋田犬と柴犬のミックスで、どんな餌もよく食べ、体重5kgからどんどん成長し、6月には10kgを越え、翌年5月には19kgになった。

はじめは家の中で買っていたが、後に庭の「クロ」の住んでいた犬小屋で飼うようにした。散歩も初めは家の周辺だけであったが、成長すると市民の森まで朝晩散歩した。遠くの公園まで散歩にゆくこともあった。フィラリアの薬は毎月欠かさずに飲ませた。

2004年1月には成犬になったので、近くの獣医で精巣摘出手術を受けた。「リキ」は麻酔がさめた後、玄関で一晩泣いた。「クロ」も卵巣を摘出したが、この時も私は「クロ」のからだをさすってやった。手術後に、市民の森に散歩に行くと、行きは元気に歩いていたが、途中で異変に気付いたのかまったく歩かなくなってしまった。しかたなく、私は20kgもの「リキ」を抱いて、途中休み休みしながら家に帰ることになった。わが家には「クロ」の卵巣と、「リキ」の精巣が2つずつ、ホルマリン漬けで保存してある。「リキ」はなかなかの美男子で、若い雌犬が「リキ」をじっと見つめることも多かった(図2)。



リキにとって幸福だったのは、2004年の夏、次女が長女を出産するために帰省したことだった。次女の長女は、リキを可愛がり、わが家に来ては「ビキ、ビキ」と呼んでいた。山梨に住むようになったら、山梨の家に次女はリキのための犬小屋を造ってくれた。私たちは山梨の次女の家に行くときは、「リキ」を車に乗せてゆき、別荘に住ませた。

図2 成犬になった「リキ」

別荘までもつ犬はめったにいないだろう。

長女の長男も、横浜に来たときはよく「リキ」と散歩してくれた。晩年には、三女の長男と長女が生まれ、毎週のようにわが家に来て、「リキ」を可愛がり遊んでくれた。そんな幸せな日々を過ごすうちに、「リキ」は少しずつ老いていった。

「リキ」には若い頃は、生協の安いドッグフードと時折私たちの食べ残しを与えていたが、年をとると安いものは食べなくなり、シニア犬用の高級なものや缶詰を食べるようになった。おかげで、犬の餌代はかなりの負担になったが、「リキ」は栄養がよくなって、年をとっても元気だった。私たちはわが身とくらべて、ある政治家の「老人にお金をかけるのは、枯れ木に水をやるようなものだ」との暴言は間違いだ、年をとったからこそ、おいしいものを食べないといけないということを「リキ」から学んだ。

しかし、リキは耳が遠くなり、若い頃は家の前に人が来るとかならず吠えたり、雷や花火の音を怖がったが、そういうことをまったくしなくなった。しかし、「クロ」のように認知機能が衰えることは最期までなかった。

2019年9月に、私たちは結婚50周年を記念してヨーロッパ旅行に出かけた。前回のイタリア旅行の時は娘夫婦に横浜の家に来てもらって「リキ」の世話を頼んだが、苦い経験もあって、近くのペットのお風呂屋さんに預けることにした。高齢なので、万一の時は三女に連絡してほしいと無理にお願いした。娘には、その期は獣医に連れていくように話した。しかし、心配して引き受けに行くと、「リキ」は私との散歩の時より元気そうに店の女性と散歩から帰ってきた。私の顔を見ると、「これからまたこの男と散歩するのか」といったような顔をした。娘に行ったら、「リキ」は「お父さんと一緒」なんだそうだ。

この年の10月は「リキ」は16歳になったので、栄区から「長寿犬表彰」を受けた。聞けば、この制度が始まった30年前には表彰されたのは数匹だったのが、今では数十匹になったという。犬の世界も超高齢になっているのだ。

しかし、「リキ」は少しずつ衰えていった。2021年2月になると、もう散歩に行こうとしなくなった。あんなに散歩が好きで、雨の日も風の日も散歩に行ったのに・・・。「リキ」の目は白くなり、白内障でほとんど見えなくなってしまっていた。しかし、「リキ」を庭に放してやると、自分で庭中を回って散歩し、餌もよく食べるので、ウンコもあちこちにしていた。私は、散歩の代わりに庭を回って「リキ」のウンコ探しをするようになった。物置の裏に入り込んで動けなくなった時は、普段ほとんど泣かないのに大きな声で鳴き、私たちに助けを求めた。「リキ」はしだいに、庭で静かに休むことが多くなった(図3)。

しかし、4月30日には、とうとう水は飲むけど、餌は食べなくなり、歩くこともできなくなった。5月1日には、庭で鳴くので、玄関のケージに入れたが、一晩中泣き続けた。2日には、朝、庭に出してやるとそこに水様便をした。玄関にもどすと泣き声が少しずつ弱り、3日の朝には息をしなくなっていた。私たちは「リキ」の体をきれいにし、大きめの段ボール箱に入れた。

大学の解剖学教室の友人に連絡し、骨格標本にしていたため、5月5日には「リキ」の遺体を大学に運んだ。私が永年にわたって献体してくださったご遺体を搬入した入り口から、解剖学教室の友人に渡した。その日私は「リ



図3 庭で休む18歳の「リキ」

キ」の記録をまとめた。

「リキ」の生き様は、私たちに多くの励ましを与えてくれた。「リキ」は最期まで、おいしいものを食べるだけ食べ、好きな散歩も歩けるだけ歩き、ウンコもしたいだけして、その生涯を終えた。私たちも「リキ」にならって、自分のすべきことをできるだけ多くして、人生をまっとうしたいと願っている。

行事案内

- ★ 8月19日 (木) 18:30～ **8・19国会議員会館前行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に フィジカルディスタンスを確保しながらスタンディング できるだけ各自のプラカード持参を 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会、9条改憲NO！全国市民アクション
- ★ 8月21日 (土) 14:00～ **第15回全国意見交換会** オンライン開催 8月16日までに次に申し込みください。
<https://forms.gle/CWJcb8kxCdGG9RDB9> 主催：安法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合 (shiminrengo.com)
- ★ 8月22日 (日) 14:30～15:30 **JCJオンライン講演会＝敗戦から76年企画 日本は再び戦争をするのか？** 講師：半田滋さん (防衛ジャーナリスト、元東京新聞論説兼編集委員) 参加費500円 (会員無料) 非会員は、
1. <https://sensowano.peatix.com/>をクリック、2. チケットを申し込むをクリック、3. 支払いに進む (初めての方はアカウントを作成、名前、メールアドレス、自分のPWを入力してログインする)、4. 支払い手段の選択、5. Zoomのurlを8月21日までにメールで送ります。会員はメール (onlinejcj20@gmail.com) に申し込みください。
主催：日本ジャーナリスト会議 (電話03-6272-9781、メールoffice@jcj.sakura.ne.jp)
- ★ 8月25日 (水) 18:00～20:00 **オルタナティブな日本をめざして (第63回)「福島第一原発の廃炉をどうするか」** 講師：田中一郎さん (ちょぼちょぼ市民連合) 会場：スペースたんぼぼ (高橋セーフビルの1階、JR水道橋駅西口徒歩5分、水道橋西通りを神保町方面に向けて左折、グローバルスポーツビル、セブンイレブン、鉄建建設本社ビルを過ぎて、次の交差点 (酒屋さん) を右折、ケバブ店の隣) 参加費無料 連絡先：03-3238-9035
- ★ 8月26日 (木) **第22回茅ヶ崎平和映画祭「ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記」** ①10:30～、②14:00～、③19:00～ 会場：茅ヶ崎市民文化会館小ホール (JR茅ヶ崎駅徒歩8分) 前売り1000円、当日1200円、高校生以下無料 主催：実行委員会 問合せ：0467-86-8038 (福田さん)
- ★ 8月26日 (木) 20:00～21:00 **国境なき医師団オンライン講演会** 講師：吉田文 (看護師) 講演タイトル：「南スーダンから生中継 独立10年、世界一新しい国のいま」 参加費無料 詳細・申込み：
<https://www.msf.or.jp/information/detail/event20210826.html> 講演内容：南スーダンの背景・現状、国境なき医師団の医療・人道援助活動、直面する課題と対策、質疑応答 時間の都合上、すべてのご質問にはお答えできかねる旨、あらかじめご了承ください。配信媒体：YouTube 問合せ：event@tokyo.msf.org までご連絡ください。国境なき医師団広報部
- ★ 8月28日 (土) 9:30～12:00 **かながわ市民連絡会全体会** zoomのみ 問合せnaito@muh.biglobe.ne.jp (内藤繁)
- ★ 8月28日 (土) 14:00～16:00 **TVドキュメンタリー作品「忘却に^{あらが}う一俳優中村敦夫・原発への警鐘」緊急上映!** 第1部 14:00～ 作品上映 第2部 15:10～ トークセッション コメントーター：村田弘 (福島原発かながわ訴訟原告団長、元朝日新聞記者) 会場：あーすぷらざ5階映像ホール (JR本郷台駅徒歩3分) 先着60名 (要事前予約) 申込み：ぶんぶんトークの会 (電話090-2650-8240、E-mail:bunbuntalk@yahoo.co.jp) 参加費無料 主催：ぶんぶんトークの会 後援：福島原発かながわ訴訟原告団、福島原発かながわ訴訟を支援する会
- ★ 8月31日 (火) 18:15～20:15 **オンラインセミナー 憲法をいかした政治の実現には総選挙で誰を選ぶか** 講演：中野晃一 (上智大学教授) 「改憲勢力の今をとらえる」 (仮題) 会場：神商連会館 (当選者のみ30名) 参加費500円 参加申込：8月24日までに次から申込み下さい。<https://forms.gle/BJcRXuyhXBaa5pr16> 主催：神奈川憲法共同センター 問合せ：神奈川労連 (045-212-5855、voice@kanagawa-rouren.jp)
- ★ 9月5日 (日) 14:00～15:50 **講演会 市民と野党の共闘で政治を変える 総選挙に向けて一市民と野党のつどい** 会場：厚木市文化会館大ホール (本厚木駅徒歩15分) 講師：中野晃一さん (上智大学教授) 会場参加、オンライン (zoom) 参加ともに参加費500円 オンライン参加申し込みは8月31日まで 主催：16区市民連合 問合せ・申込み：080-1172-1094 (山本)、090-3912-6797 (大友)
- ★ 9月10日 (金) 18:00～ **憲法9条改憲NO!ウィメンズアクション** 場所：JR有楽町駅イトシア前 主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会
- ★ 9月8日 (水) 14:00～ **伊藤千尋「心の歌よ！」コンサートと講演のつどい** 講師：伊藤千尋さん (国際ジャーナリスト、九条の会世話人) 会場：かなつくホール (JR東神奈川駅または京急東神奈川 (旧仲木戸駅) 徒

- 歩1分) 参加費:500円 申込先:いづみ書房(045-241-1104) 共催:かながわく九条の会、新日本出版社、いづみ書房
- ★ 9月10日(金) 12:15~ ランチタイムデモ 場所:桜木町駅前 主催:神奈川憲法共同センター 問合せ:神奈川労連(045-212-5855、voice@kanagawa-rouren.jp)
 - ★ 9月11日(土) 13:30~16:45 神奈川革新懇夏の交流会~総選挙決起集会 会場:藤沢市民会館第二展示ホール(75人使用、藤沢駅南口徒歩15分) 参加費500円(事前登録必要) 政党挨拶:立憲民主党、共産党、社民党ほか代表挨拶、横浜市長選報告、川崎市長選に向けて、総選挙掌理に向けた企画 主催:神奈川革新懇 問合せ:080-5931-8179
 - ★ 9月11日(土) 13:30~16:00 全10回研究会・マルクスの理論と現代 A日程(40歳までの若手研究会) 第1回「絶対的貧困」 会場:関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円 講師:渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先:NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話:045-662-9839、メール:npo-soken@blue.ocn.ne.jp
 - ★ 9月14日(火) 14:00~15:00 JSA神奈川支部幹事会 「日本の科学者」「支部通信」発送作業 会場:かながわ総研会議室(横浜市中区不老町 2-8-8 不二ビル6階604号室、045-662-9839) 交通:JR関内駅南口または地下鉄伊勢佐木長者町徒歩5分、横浜文化体育館北側連絡先:後藤仁敏(電話・Fax:045-894-1052、携帯:090-7175-1911、E-mail:goto(at)kd5.so-net.ne.jp)
 - ★ 9月18日(土) 13:00~16:00 特別集中講座「パンデミックと731部隊」加藤哲郎さん(一橋大学名誉教授) 第1回講座「オリンピックに翻弄された日本のパンデミック対策-731部隊から感染研・ワクチン村へ」 場所:愛恵ビル3階(山手線駒込駅東口徒歩2分) 定員先着30人 資料代1000円 企画:ヒロシマ連続講座 申込先:qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp(竹内)
 - ★ 9月18日(土) 13:30~16:00 全10回研究会・マルクスの理論と現代 B日程(年齢不問) 第1回「絶対的貧困」 会場:関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円、通し参加でない参加者は1回につき1000円、30歳未満は500円 講師:渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先:NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話:045-662-9839、メール:npo-soken@blue.ocn.ne.jp
 - ★ 9月30日(木) 13:30~16:00(開場13:00) 講演と音楽のつどい「憲法を生かす道へ」 会場:茅ヶ崎市民文化会館小ホール 講演:斎藤美奈子さん「コロナ禍で見えた 生・性・政」 オープニング:デュオ・オブリガート演奏 参加費:500円 予約・問合せ:0467-85-7182(宮澤) 090-6489-3739(林) 定員188名のため、チケットをお持ちの方、ご予約の方を優先させていただきます。主催:九条の会・ちがさき
 - ★ 10月9日(土) 13:30~16:00 全10回研究会・マルクスの理論と現代 A日程(40歳までの若手研究会) 第2回権利と民主主義の否定 会場:関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円 講師:渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先:NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話:045-662-9839、メール:npo-soken@blue.ocn.ne.jp
 - ★ 10月16日(土) 13:00~16:00 特別集中講座「パンデミックと731部隊」加藤哲郎さん(一橋大学名誉教授) 第2回講座「映画・スパイの妻-『幻の東京オリンピック』の影で進められた細菌戦と人体実験」 場所:愛恵ビル3階(山手線駒込駅東口徒歩2分) 定員先着30人 資料代1000円 企画:ヒロシマ連続講座 申込先:qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp(竹内)
 - ★ 10月16日(土) 13:30~16:00 全10回研究会・マルクスの理論と現代 B日程(年齢不問) 第2回権利と民主主義の否定 会場:関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円、通し参加でない参加者は1回につき1000円、30歳未満は500円 講師:渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先:NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話:045-662-9839、メール:npo-soken@blue.ocn.ne.jp
 - ★ 11月6日(土) 詳細後日 特別集中講座「パンデミックと731部隊」加藤哲郎さん(一橋大学名誉教授) 第3回多摩霊園フィールドワーク「戦後731部隊の記念碑-多摩霊園『精魂塔』の不気味、ゾルゲ事件との関係」 場所:多摩霊園 ゾルゲの墓部分については、鈴木規夫さん(愛知大学教授)の案内 フィールドワーク後に、「尾崎・ゾルゲ事件研究会(仮称)結成準備会」開催予定 企画:ヒロシマ連続講座 申込先:qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp(竹内)
 - ★ 11月13日(土) 午後 地域・職場・青年革新懇全国交流会 会場:カレッツかわさき大ホール(JR川崎駅北口東、京急線京急川崎駅徒歩15分、市役所通りをまっすぐお進みください) 主催:全国革新懇 協力:神奈川革新懇(080-5931-8179)
 - ★ 11月13日(土) 13:30~16:00 全10回研究会・マルクスの理論と現代 A日程(40歳までの若手研究会) 第3回ゼロ成長・ゼロ金利の時代-利潤率の傾向的低下法則 会場:関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円 講師:渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先:NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話:045-662-9839、メール:

npo-soken@blue.ocn.ne.jp

- ★ 11月20日(土) 13:30~16:00 **全10回研究会・マルクスの理論と現代 B日程(年齢不問) 第3回ゼロ成長・ゼロ金利の時代—利潤率の傾向的低下法則** 会場: 関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円、通し参加でない参加者は1回につき1000円、30歳未満は500円 講師: 渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先: NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話: 045-662-9839、メール: npo-soken@blue.ocn.ne.jp
- ★ 11月24日(水) 14:00~16:00 **池内了さん講演会「コロナ禍と戦争—今、人類の英知が試される」** 会場: 磯子区民文化センター杉田劇場ホール(JR新杉田駅直結) 参加費: 一般1000円、学生500円 講師: 池内了さん(名古屋大学名誉教授、九条の会世話人) 歌と演奏: tomokoさん(栄区出身のシンガーソングライター)「We Are The World」「星を見あげて」ほか 主催: 根岸線沿線九条の会連絡会(磯子地区九条の会、森九条の会、洋光台九条の会、港南台九条の会、栄区九条の会、大船九条の会 連絡先: 090-7175-1911(後藤)
- ★ 11月29日(月) 18:50~21:00 **9条かながわ大集会2021n横浜** 会場: 関内ホール(関内駅徒歩5分) 参加費999円 講師: 斎藤美奈子さん(文芸評論家)、岡田尚(弁護士、九条かながわの会事務局代表) パフォーマンス: 歌う九条の会バンド、横浜憲法劇(予定) 主催: 九条かながわの会連 連絡先: 090-7175-1911(後藤)
- ★ 12月4日(土) 13:00~16:00 **特別集中講座「パンデミックと731部隊」加藤哲郎さん(一橋大学名誉教授) 第4回講座「731部隊と100部隊—人獣共通の感染症への線総動員」** 『満州における軍馬の鼻疽と関東軍』(文理閣)の著者である小河孝さん(日本獣医生命科学大学教授)とのジョイント講座 場所: 愛恵ビル3階(山手線駒込駅東口徒歩2分) 定員先着30人 資料代1000円 企画: ヒロシマ連続講座 申込先: qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp(竹内)
- ★ 12月11日(土) 13:30~16:00 **全10回研究会・マルクスの理論と現代 A日程(40歳までの若手研究会) 第4回エコロジーとジェンダー** 会場: 関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円 講師: 渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先: NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話: 045-662-9839、メール: npo-soken@blue.ocn.ne.jp
- ★ 12月18日(土) 13:30~16:00 **全10回研究会・マルクスの理論と現代 B日程(年齢不問) 第4回エコロジーとジェンダー** 会場: 関東学院大学関内メディアセンター(神奈川新聞社屋8階、約20名) 参加費全10回通し参加者8000円、30歳未満は4000円、通し参加でない参加者は1回につき1000円、30歳未満は500円 講師: 渡辺憲正(関東学院大学名誉教授) 主催・申込先: NPO法人かながわ総研に電話かメールで 電話: 045-662-9839、メール: npo-soken@blue.ocn.ne.jp
- ★ 2022年1月15日(土) 13:00~16:00 **特別集中講座「パンデミックと731部隊」加藤哲郎さん(一橋大学名誉教授) 第5回講座「731部隊・100部隊の戦後責任—隠蔽・免責・復権ルートとネットワーク再建」** 場所: 愛恵ビル3階(山手線駒込駅東口徒歩2分) 定員先着30人 資料代1000円 企画: ヒロシマ連続講座 申込先: qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp(竹内)

第2回支部幹事会の報告

7月20日の第2回幹事会は、飯岡、後藤、浜田、益田の4名の参加で、「日本科学者」と「支部通信」の8月号の発送作業と幹事会をおこないました。これまで惣田さんに担当していただいておりますが、今回はすぐ近くの長者町郵便局にみんなで運び、全50通を学術刊行物として発送することができました。幹事会では、8月1日の原水禁科学者集会の案内(浜田さん)、第2回全国幹事会と川添名誉教授への返事と会談の報告(後藤)、会計からの報告(飯岡さん)がありました。第3回は、8月17日(火)15時から、第4回は9月14日(火)14時から、かながわ総研です。

JSA 第4回神奈川支部幹事会 日時: 2021年9月14日(火)14時~15時(都合により15時ではなく14時からに変更します) 会場: かながわ総研会議室(関内駅南口または伊勢佐木長者町駅徒歩5分、不二ビル6階604号室) 内容: 「日本の科学者」「支部通信」10月号の発送、支部幹事会、その他。

お知らせ: 同封した「日本の科学者」2021年9月号の52~55頁に「横浜カジノ誘致問題とJSA神奈川支部の活動」を、63頁に「JSA神奈川支部第57回定期大会での新型コロナウイルス感染症についての2つの講演」を報告しました。ぜひお読みくださるようお願いいたします。

次号の原稿の募集: 近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切りです。

送り先: 後藤仁敏 (E-mail: goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax: 045-894-1052)